

●定置網の体験が中心

北浦町は、マリントゥーリズムに取り組んでいる。都市部に住んでいる人々が農山村に滞在し、自然や地域の文化、人々との交流を楽しむグリーンツーリズムをヒントに、素晴らしい海岸の景色と漁業体験を楽しんでもらおうという試み。二〇〇〇(平成十二)年十月、県内で初めて漁業体験ツアーを実施した。

北浦は江戸時代から、まかせ網や地引き網などによる漁業が盛んで、明治、大正時代になると規模も拡大。戦後は養殖漁業に取り組み、今では町の総生産の七割を漁業が占める県内有数の漁業の町となっている。沿岸や近海での定置網、巻き網、底引き網漁ではアジやサバ、イワシなどが捕れ、湾内ではタイやカンパチなどを養殖している。

現在、町が挑戦しているのが大分県の関アジ、関サバに匹敵する魚のブランド化。巻き網漁に



定置網での漁業体験。魚の種類が多さに歓声が上がります。

よって日向灘で捕れたマアジを手で触れずに生きたまま持ち帰り、いけすで一週間以上生かす。この間餌は与えない。潮の流れの激しい日向灘で捕れた肉質の締まったマアジを、餌を与えないことでさらに品質を向上させる。「いきいき宮崎のさかなブランド確立推進協議会」は、この魚を「北浦灘アジ」と命名、県内初のブランドとして認定した。

漁業の町にふさわしい都市との交流事業として始まったマリントゥーリズムは、安全を第一に沿岸の定置網と養殖漁業の体験が中心。

参加者は漁船で定置網が仕掛けてある海域まで行き、網揚げの様子を見る。網の中にはメジナやアジ、タイ、イカなど赤、青、黒、銀色に光るさまざまな魚が跳びはねる。それをたも網ですくう。子供、大人の間から初めての体験に歓声が上がります。

湾内に浮かぶ養殖いけすでは、船上から餌やりを見学。餌に勢いよく群がる無数の魚、しぶき立つ海面、これにも大歓声。干物づくりに釣りも体験できるが、なんと言っても最大の人気は、捕れたての伊勢エビやタイ、カンパチなどの料理が直接味わえること。コリコリとした食感、口に広がる甘み、潮のにおい、どれも都市では味わえない絶品。体験後は同町下阿蘇のミニリゾート「浜木綿村」の Cottage や民宿に泊まり、疲れを癒やす。

これまでの参加は県内の小、中学生や親子会、職場グループが中心。このほかでは大分県の学校からの申し込みもあり、魚の町の売り出しに貢献している。

前田博仁